

総務消防委員会行政視察報告

視察第1日 熊本県玉名市 2018年5月8日(火)

●視察先・視察項目

玉名市役所「新庁舎供用開始に伴う課題について」

玉名市の概要

玉名市は熊本県の北西部に位置する。

平成17年10月3日に玉名地域の1市3町（玉名市・岱明町・横島町・天水町）が合併し、新しい「玉名市」が誕生した。

その人口は県内第4番目の都市であり、有明海、菊池川、小岱山及び金峰山系の山々などの豊かな自然や数多くの歴史的資源に恵まれている。

産業面では米やミカン、イチゴをはじめとする野菜、果物等の農産物やノリなどの水産物の生産が盛んで、市街地の北部、小岱山の麓には1300余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉があり、県北部の中心の地となっている。

一方、市の南部、有明海を望むミカン園の丘にある小天温泉は、夏目漱石の名作「草枕」の舞台としても知られている。

九州新幹線鹿児島ルート of 全線開通に伴い開業された新玉名駅により、熊本都市圏と福岡都市圏への交通の利便性が向上し、従来のJR鹿児島本線や九州縦貫自動車道、有明フェリーなどとあわせて、県北の交通の拠点として今後の発展が大いに期待されている。

また、玉名市名誉市民である「金栗四三氏」を主人公として描く「いだてん～東京オリンピック噺～」が2019年NHKドラマの放送が決定しており、市内でも盛り上がりを見せている。

○人口：66,864人

○世帯数：27,562世帯

○面積：152.60km²

(2018年4月30日)



1 視察目的

新城市では2018年5月7日より、建て替え後の新庁舎での行政運営がスタートしている。

そんな新城市の新庁舎を「最高の市民サービス」を提供できる場へと繋げていけるよう、近年庁舎を建て替えて行政運営をスタートしている事例を視察の目的地にすることとした。



新庁舎供用開始時の課題に対する対応や、その後の行政運営の状況を確認することで新城市にもそのノウハウを適用させることを目指す。

玉名市の庁舎は新城市の庁舎に比べてやや規模が大きいがその見た目や一棟集約を目的とした点等、全国的に見た場合に比較的類似した施設と言える。

2 視察内容

まず、現在の玉名市の庁舎建設に至った経緯とその事業内容について伺った。

新庁舎建設前は玉名市役所本庁、岱明支所、横島支所、天水支所、の4箇所に機能が分散しており、事務所スペースの他にも会議室や相談室等が不足している状況であった。

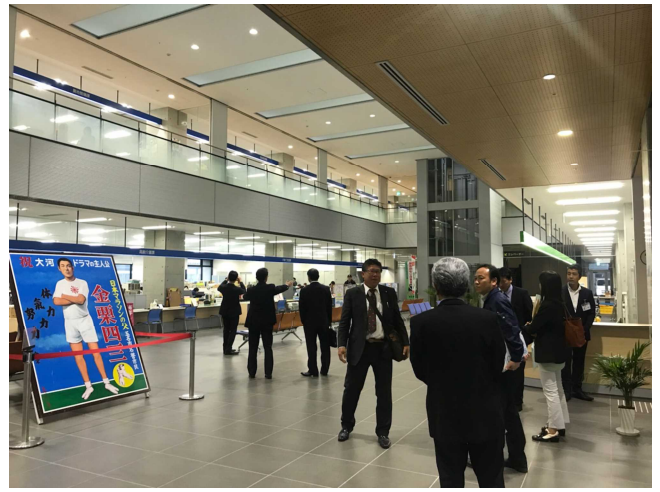
また、駐車場が慢性的に不足しており、平成12年には立体駐車場を建設したものの職員は周辺の私有地や菊池川の河川敷駐車場等も利用していた。

施設の老朽化もひどく、エレベーターやスロープといったバリアフリーに関しても対応不足であった。

そんな状況の中、平成18年度に策定した新庁舎建設基本構想に基づいて庁舎建設に向けて動き出した。

以下に示すのが「”人、まち、未来”はたらく庁舎宣言」と称した7つの基本方針である。

- 多様な市民ニーズや増加する行政事務にも対処できる機能的な庁舎
- 規模・機能と建設・維持管理経費のバランスを重視した経済的な庁舎
- 市政の進展を見据え、県北の拠点都市の核施設としてふさわしい庁舎
- 災害に備えた防災拠点としての役割を果たすことのできる安全な庁舎
- 周辺環境と調和し、誰もが使いやすく身近に感じる魅力的な庁舎
- 進展する情報化や高度な情報通信技術にも対応できる先進的な庁舎
- 省エネルギーや省資源対策などの環境に配慮した自然にやさしい庁舎



この基本構想に沿って、建設スケジュールや建設位置の選定、基本設計等々順調に計画が進んでおりましたが、平成21年11月の選挙で就任した新市長の方針によって「計画を白紙に戻し、建設位置の再決定、総事業費を20億円削減」といった再検討期間に入ることとなった。

そして、新庁舎建設検討委員会等での再検討を経て、新たなスケジュールでの庁舎建設事業に着手していった。結果として、約20億円の総事業費削減に成功し、現在の玉名市の庁舎が完成することになった。

その後は事前に送付していた質問事項について回答を頂いた。

現在の課題としては、「旧庁舎跡地の活用予定が未定である」、「玉名市役所という文字が庁舎建屋に付いておらずわかりにくい」といったものがある。

対応済みの課題としては、「トイレの場所が分かり難かったのでサインを追加設置した」、「会議室の不足を委員会室で補完」といったものがあった。

熊本の震災の際には庁舎付近では震度5強程度の揺れであったが、耐震構造のおかげで2cm程度の地盤沈下があった程度で大きな被害はなかった。

旧庁舎においてはガラスが割れる、建物の損壊などの被害があったため、改めて新庁舎の有益性が証明された結果となった。

庁舎内の緑化管理には市内業者を利用したり、シルバー人材センターの人材も有効に活用している。

また、周辺の各種施設と駐車場を共用したり、バスルートの変更をするなどしてこの地域の施設全体として利便性が向上していると言える。

分散していた機能が集約されたことによってこの庁舎に来ればなんとかなるという市民の安心感にも寄与しているとのことであった。

最後に庁舎館内を実際に説明して頂きながら拝見させて頂いた。

特徴的なのは、1階から2階にかけて吹き抜けになっており、庁舎内の見通しが非常に良

いことが印象的であった。

見通しが良いことで市民が訪れてきた際にどこにどの窓口があるのか明確に説明することができるとのことであった。

3 所感

今回の玉名市の視察を通して、分散していた行政機能を集約して運用を開始した庁舎の実例を確認するできたことによって新城市の庁舎でも起こりうるであろう課題やその解決方法をイメージすることができるようになった。

新城市と玉名市の庁舎の違いはあれど、市民サービスの向上を目指す点は共通しており、庁舎を訪れた市民が戸惑うことなく目的のサービスを受けられるために分かりやすい案内情報の大切さを改めて再認識することとなった。

また、新しい庁舎での行政運営をスタートした際には、どうしても施設の利用者である市民の方々から様々な意見や不満の声が出てくることは避けられないが、それに対して1つ1つ真摯に向き合って対応していくことの大切さを感じることもできた。

また、市民サービスの向上以外にも庁舎内で働く職員の職場環境をより良いものにしていく必要性も考えさせられた。

最高の市民サービスを提供するためにはやはり、最高の環境で最高のパフォーマンスを発揮できる職員が欠かせない存在になると思う。

今回の視察で学んだ視点を今後の新城市の新庁舎供用にしっかり活かすべく活動していくことを決意した。

